

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第4グループ(新城・大戸・宮内)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績		H27	H28	H27	H28
	1 新城こども文化センター				
	①年間延べ利用者数	36,696人	32,904人	②年間延べ利用団体数	160団体 182団体
	2 新城小学校わくわくプラザ				
	①登録者数	326人	412人	②年間延べ利用者数	24,003人 28,038人
	1 大戸こども文化センター				
	①年間延べ利用者数	44,828人	41,813人	②年間延べ利用団体数	392団体 352団体
	2 大戸小学校わくわくプラザ				
	①登録者数	436人	435人	②年間延べ利用者数	19,836人 21,980人
	3 大谷戸小学校わくわくプラザ				
	①登録者数	519人	521人	②年間延べ利用者数	30,776人 33,127人
	1 宮内こども文化センター				
①年間延べ利用者数	37,860人	33,246人	②年間延べ利用団体数	392団体 401団体	
2 宮内小学校わくわくプラザ					
①登録者数	353人	368人	②年間延べ利用者数	19,140人 20,014人	
3 中原小学校わくわくプラザ					
①登録者数	371人	371人	②年間延べ利用者数	24,248人 23,715人	
収支実績		単位:円			
	1 収入				
	指定管理料		148,802,147		
	2 支出				
	人件費		124,801,811		
管理費		9,091,067			
事務経費		7,440,988			
その他経費		8,788,312			
合計		150,122,178			
3 差引		-1,320,031			
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
	(評価の理由) ・仕様書及び事業計画書に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・新城こども文化センターでは、近隣に幼稚園や保育園が多いことを地域の特性として捉え、身体測定会を毎月1回定期的に行い、乳幼児親子の交流や仲間づくりに積極的に取り組むほか、宮内こども文化センターと協力し、ベビー服リサイクルを年2回行っている。 ・大戸こども文化センターでは、中原区役所との共催で、双子の乳幼児親子を対象とした「大戸双子の会」を毎月開催するなど、グループ全体として、乳幼児とその保護者に向けた取組を積極的に推進している。 ・大戸こども文化センターでは、「こども祭り」の実行委員会に多くの中学生・高校生を受け入れる等の取組を行い、中高生の利用が2,238人増加しているほか、新城こども文化センターでは、新城いこいの家との連携事業を実施しており、多世代の利用促進にも積極的に取り組んでいる。				

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「子ども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由)					
<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについては、利用者・保護者からのアンケート調査や、運営協議会、子ども運営会議、保護者懇談会を通じて意見を集約し、適切に対応できている。 新城子ども文化センターでは、子どもたちの意見に基づき、子どもたちの自主的な活動としての図書委員や放送委員の発足につなげるなどの取組を行っている。 特別な配慮を要する利用者への対応については、学校との情報共有や、障害の程度に応じてスタッフの加配を行うほか、大戸子ども文化センターでは、近隣の川崎市聾学校に施設の広報を依頼し、利用促進を図り、中央支援学校大戸文教室と同一敷地内にある大戸小学校わくわくプラザでは、両校と児童へのサポート等について協議・連携している。また、宮内小学校わくわくプラザでは、荷物の整理・整頓をしやすくする工夫を行っている。 地域、学校及び行政機関との連携については、新城子ども文化センターでは、西中原中学校生徒の協力を得て、施設内で「段ボール迷路」を実施している。 また、大戸子ども文化センターでは、利用団体の協力を得て、「卓球メイト」を毎月実施している。 さらに、宮内子ども文化センターでは、宮内中学校生徒の協力を得て、「プラネタリウムとサイエンスショー」を行った。 広報については、乳幼児たよりや中学生・高校生たよりを作成するほか、宮内子ども文化センターでは、たよりの配布先を見直し、近隣幼稚園等で配布した。 また、大戸子ども文化センターでは、空手クラブだよりを年間8回発行するとともに、クラブ代表児童がケーブルテレビ局のインタビューを受けて活動をPRするなど、様々な媒体を用いた積極的な広報の工夫がなされている。 運営協議会については、定期的な開催だけでなく、大戸子ども文化センターの「子ども祭り」、宮内子ども文化センターの「みやっこバザール」など、運営協議会との共催事業も積極的に実施しており、町内会・子ども会・PTA等で構成される運営協議会と協力し事業を実施することで、地域のつながりが生まれている。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
(評価の理由)					
<ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされており、特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的かつ多様な研修が行われており、大戸子ども文化センターと管轄のわくわくプラザでは、「障害児事例検討会」を前期・後期の2回実施し、スタッフ全員が情報交換して課題解決に向けた取組が行われた。 個人情報の取扱については、法人において定めている個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されており、個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
(評価の理由)					
<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備等の保守管理については、大谷戸小学校わくわくプラザでは、通常の補修を行うとともに、非常口扉やパーテーションレールなど、安全確保のために重要な設備の補修を行い、児童の安全確保を意識した施設保守を行った。 利用者の安全確保については、大谷戸小学校わくわくプラザは、施設のスペースに応じて児童の安全確保等のため様々な工夫をするともに、二次保育利用者への対応を円滑かつ確実に実施している。 また、新城小学校わくわくプラザでは、学校の校庭・体育館利用時のルールを確認し、わくわくプラザが校庭・体育館を利用するときのルールを統一することで、子どもたちが同じルールのもとで遊べる環境をつくるなど、安全確保に努めた。 さらに、宮内小学校わくわくプラザでは、サッカーをする子どもにはより目立つ色のビブスを着用させたり、施設入口に左側通行を示すテープを貼るなど、衝突による負傷を防ぐ工夫を行った。 衛生管理については、各館ともマニュアルの整備、職員向けの研修の受講のほか、施設に嘔吐物処理セットを設置し、感染症対策を行った。 また、食物アレルギーについては、食品の提供の際には保護者に確認するなど十分に注意した。中原小学校わくわくプラザでは、おやつを誤って受け取ることがないように、個人ごとのプレートを作成し対応した。 さらに、周辺の交通安全マップや、子ども110番の周知などにより、施設への行き帰りで児童の安全に配慮した取組を行うとともに、宮内子ども文化センターの子ども運営委員が、地域の商店主等にインタビューして作成した「ぼうさいマップ」は、日本損害保険協会主催の「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に入賞した。 					

収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

これまでこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を行ってきた経験を活かし、安定した施設運営を行っており、利用者の安全や災害時の対応にも配慮して適正に業務を遂行している。
 また、一部の事業において、地域課題の把握・分析に基づく企画運営がなされていることは評価できる。
 さらに、今後の展開においても、運営協議会その他地域からの意見聴取や、指定管理者自ら積極的に地域の実態把握に努めるなどの取組をさらに進め、きめ細かく対応していく必要がある。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

利用者ニーズの把握、地域課題の把握及び地域との連携をさらに進めるとともに、職員のスキル向上等にも継続して取り組み、子育て支援、青少年の主体的な活動、市民活動の拠点として、より一層充実した運営に努めてもらいたい。